令和4年度　学校評価

【教育の基本方針】（尼崎市教育振興基本計画）

1　未来志向の教育

2　個の尊厳や人権の尊重

3　家庭・地域社会との連携（子どもの視点に立った教育）

［各校の重点取組について］ ①自分と他人を大切にする豊かな心を育てる ②共に学び、高め合い、確かな学力を身につけさせる

③よい生活習慣を身につけさせ、心身共に健康な生徒を育てる ④日々実践こそが第一の研修と位置づけ、研修を大切にする

⑤家庭・地域から信頼を得て『共有』を行う

学 校 評 価 の 観 点

1　教育・学習内容を充実させ、確かな学力の育成と健やかな体づくりに取り組む	評価Ⅰ（教職員）	評価Ⅱ（校園長）
（1） 授業改善の取組を促進するとともに、客観的なデータを踏まえた確かな学力の保証及び縦のつながりを重視した校種間の連携に努める （2） 障害の有無やその他の個々の違いを認識しつつ、様々な人々が生き生きと活躍できる共生社会の形成の基礎となる特別支援教育の取組を充実させる （3） 食育を通して生活改善の取組を促進し、健全な心と身体を培い、豊かな人間性の育成を図る （4） 体育・スポーツ活動の取組を促進し、体力・運動能力の向上を図る （5） 積極的にICTを活用し、情報活用能力の育成を図る	3.4	3.5

取組	成果	課題と改善策
・研究推進チームを中心として、「全国学テ」や「尼崎市学力調査」、「ステップ・アップ調査」の分析を踏まえ、課題と改善策を検討し、具体的取り組みを推進した。 ・全教職員による互観授業を通して、授業力の向上を目指すした。 ・ユニバーサルデザインの授業に取り組むとともに個に応じた授業支援や評価を行った。 ・給食指導を通して、個々の生徒に応じた心身を育てる取り組みを推進した。 ・リズム体操を通じて、体力向上への意欲を高め、個々に応じた適切な運動に取り組んだ。	・朝の帯学習の徹底により、学習習慣の育成に繋がるとともに、各種調査結果の向上に繋がった。 ・教職員の授業改善の意欲の向上とともに、生徒と一体となった授業づくりに繋がった。 ・個に応じた授業づくりにより、生徒の授業参加の意欲が高まった。 ・個に応じた食の大切さを伝えることにより、適切な食習慣の育成に繋がった。 ・体育での準備体操の工夫により、適切な運動と体育への意欲の向上に繋がった。	・CD層の学力は向上傾向にあるが、AB層へのより適切な働きかけや取り組みが必要となることから、新たな取り組みを検討する。 ・教職員間でのより積極的な協働を通して、特色ある授業づくりや取り組みを推進する必要がある。 ・多様な場面を適切に設定・活用し、生徒の自律や主体性を総合的に育成していく必要がある。 ・学習習慣や家庭学数の定着に向けた、多様な取り組みが必要となることから、ICT等を適切に活用し、個に応じた取り組みを行う。

2　心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る	評価Ⅰ（教職員）	評価Ⅱ（校園長）
（1） 基本的生活習慣確立の取組を促進し、心身共に健全な育成を図る （2） 道徳性育成の取組を促進し、多様性を受容し、思いやりに満ちた人間関係及び社会とのかかわりづくりに努める （3） 各校のいじめ防止基本方針に基づき、誰もが安全・安心して過ごすことができる学校の環境づくりに努める （4） キャリア教育の取組を促進し、社会的自立に必要な能力を育成を図る （5） 不登校にならないようにするための学校づくりを進めるとともに、不登校児童生徒の学習環境の確保や家庭への支援に努める	3.4	3.5

取組	成果	課題と改善策
・授業や部活動、休み時間、家庭などあらゆる場面を通して、生徒、教師、保護者等が良好な関係性が築ける取り組みを推進するとともに、見守りや必要に応じた支援を行った。 ・各種アンケートや日々の生徒観察等を通して、実態把握を行うとともに、SCやSSW等の専門家と連携した支援・対応を行った。 ・必要に応じた教育相談、家庭訪問、別室指導、関係機関との連携等を行った。 ・発達段階に応じた人権講演会や研修、授業等を通して、多様性を受容させるとともに人権意識を向上させた。	・問題行動の減少や人との関係性の改善が図られるとともに、重篤なケースとならないような未然防止・早期対応が図られた。 ・SCとの連携により、アサーションやアンガーマネジメント、自己理解等の育成に繋がった。 ・不登校等の生徒の自己を見つめる時間の確保や居場所づくりを推進し、将来の社会的自立に向けた進路選択に繋げた。 ・SCやSSWとの連携により、生徒の特性の理解や家庭理解を深め、個に応じた安心・安全への取り組みや支援に繋げた。	・日々の教育相談や見守り、声掛け等を丁寧に行い、必要かつ適切な支援を慎重・丁寧に組織的に行っていく。 ・個に応じた学習や部活動、行事等を準備し、すべての生徒が自己肯定感・自己有用感・自尊感情を感じられる取り組みを進める。 ・生徒自身が自己決定できる多様な機会を設け、自律的・主体的な生徒の育成を目指す。

３　家庭・地域・学校の連携を深め、活力に満ちた学校園づくりに取り組む （１）　教職員の資質向上の取組を促進し、業務改善を進めながら学校の組織力及び教育水準の向上を図る （２）　学校と地域との連携・協働を推進し、地域とともにある学校づくりに努める	評価Ⅰ（教職員） 3.1	評価Ⅱ（校園長） 3

取組	成果	課題と改善策
・小・中連携により、授業デザインの相互理解、小学校への出前授業、部活動紹介、合唱見学、共同研修などを通して、教職員の資質向上や連携の強化を図った。 ・生徒のシチズンシップを目指し、地域行事への積極的参加や共同活動を行った。 ・授業参観や各種行事の積極的公開やホームページや学校だよりを通じた情報発信等による家庭・地域連携を図った。 ・関係機関等との顔の見える関係づくりを積極的に行った。 ・計画的な教職員研修を行った。	・教職員の連携強化が図られるとともに、中1ギャップの解消を促進させた。 ・小中のカリキュラムや学習形態の円滑な引継ぎを図ることに繋がった。 ・地域の学校理解が促進され、学校運営における連携が強化された。 ・生徒の地域への愛着が深まり、自己有用感が高められた。 ・関係機関との連携強化により、学校だけでの対応が困難な課題の解消に繋がった。 ・教職員の資質向上に向けた意欲が高まった。	・教職員の業務改善に向けて、各種行事の準備の工夫や計画的な活動への取組推進、計画的な年休等の取得を徹底していく。 ・学校運営協議会設置に向けた準備を行っていく。 ・教職員の資質向上に向けては、個々のキャリアステージに応じた研修をOJTを含め準備し推進していく。 ・関係機関とは、日ごろから緊密な情報交換を行い、課題への未然防止・早期対応に備える。

４　安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る （１）　安全教育の取組を促進し、登下校及び学校園内の安全確保を図る （２）　防災教育の取組を促進し、危機管理能力の向上を図る	評価Ⅰ（教職員） 3.3	評価Ⅱ（校園長） 3.5

取組	成果	課題と改善策
・生徒の登校が集中する時間帯には、教職員が手分けしてポイントに立ち、安全な登校ができるよう指導・見守りを行った。 ・廊下や教室内等の整理整頓を徹底させ、日ごろから安心・安全に学校生活が送れるよう注意喚喚起した。 ・関係機関と連携し、自転車教室など、日々の生活における安全への意識の向上を図った。 ・関係機関と連携し、定期的な防災訓練を通して、非常変災への対応力の向上を図った。 ・手指消毒やマスクの着用など、TPOに応じた取り組みを行い、感染予防に取り組んだ。	・日々の安全指導や教育を通して、生徒の安全に対する意識の向上と具体的行動に繋がった。 ・日々の清掃活動なども、丁寧に行っている。 ・非常変災時等の地域や関係機関との連携体制の確認ができた。 ・コロナ等のクラスターの発生の防止や熱中症の予防等が行えた。	・日々の学校生活や家庭での生活等の場面で、様々な危機を想定し、多様な取り組みや訓練を行う必要がある。 ・地域や関係機関等と日ごろから緊密な情報交換等を行い、緊急時や非常変災時等への備えを行っておく。 ・生徒の発達段階に応じた安全教育や防災教育を計画的に推進する。 ・安全や防災に係る計画・取り組みについては常に見直し、PDCAサイクルを行う。

教育目標 （1） 教育目標の達成に向けた充実した教育活動の展開 （2） 教育目標の具現化と指導の充実	評価Ⅰ（教職員） 3.3	評価Ⅱ（校園長） 3.5

取組	成果	課題と改善策
・年度当初に教育目標を教職員に周知するとともに、各教職員の目標実現に向けた具体的取り組みを共通理解した。 ・目標実現に向けた計画及び取り組みについて定期的に検証し、必要に応じたPDCAサイクルを実行した。 ・目標実現に向け必要となる教職員の資質向上においても、計画的な研修やOJTを通して、取り組みを推進していった。 ・各種委員会を必要・適切に開催し、教職員間の意思疎通や情報共有を図り、良好な関係性の構築を図った。	・明確な目標設定の下、各教職員の具体的役割や取り組みが推進された。 ・互いの役割を理解・尊重し、円滑に取り組みが進められた。 ・教職員間の良好な関係性が高まっていった。 ・学校だよりや学年だより、ホームページ等で学校の目標達成の進捗状況等を発信することができた。 ・授業参観や各種行事等を通して、保護者や関係者へ目標の具現化や指導等の状況を知らせることができた。	・必要に応じたPDCAサイクルを実行する。 ・開かれた学校づくりに努め、保護者や関係者等が常に学校の教育活動について知る機会を確保し、よりよくするための意見交換や情報共有、連携が図れるよう取り組んでいく。 ・教職員の資質向上のための研修については、テーマの絞り込みや実施時期や取り組み時間を検討し、業務改善に配慮する。 ・特定の教職員に業務が集中しないよう、キャリアステージや個々の環境等に配慮しつつ、業務の平均化を図る。

研究テーマ （1） 研究テーマの達成に向けた充実した教育活動の展開 （2） 研究テーマの具現化と指導の充実	評価Ⅰ（教職員） 3.4	評価Ⅱ（校園長） 3.5

取組	成果	課題と改善策
・研究推進委員会を中心として、目標実現のための研究テーマを設定し、年間計画や具体的取り組み、必要に応じたPDCAサイクル等について検討・協議を重ね、全教職員の共通理解のもと取り組みを進めて行った。 ・特に学校評価に係る生徒アンケートを全教職員で見直し、生徒の声を指導に反映させる、指導と評価の一体化をより一層進めた。 ・市教委と連携し、多面的なPDCAサイクルを推進した。	・教職員の研究へのモチベーションが向上し、活発な研究協議が行えた。 ・研究成果が速やかに生徒へ向けられるとともに、PDCAサイクルが実施された。 ・研究テーマを絞り、時期や期間、取り組み時間等を検討することを通して、教職員の負担軽減を図った。 ・授業デザインの共通理解が図られた。 ・教職員の良好な関係性の構築に繋がった。	・学校や生徒の状況等を丁寧にアセスメントし、研究テーマの絞り込みを行っていく。 ・研究活動が教職員の業務負担とならないように工夫する。 ・特定の教職員に研究業務が集中しないよう工夫するとともに、教職員間の共通理解を行う。 ・研究が目的とならないよう、常に教育実践及び生徒へのよりよい教育活動を目指していく。